



もうこうばらさいと

猛攻刻闘士

ガリアちゃん

DOJIN

R18

聖闘士星矢Ω 同人誌



つい、遊んでみたくなってしまうたではないか……。

全く、あいつが自分で使ってみればよいな」とほざくから……。



パラドクスの匂い……。

あの女には手を焼いてばかりだ。



んぶ。



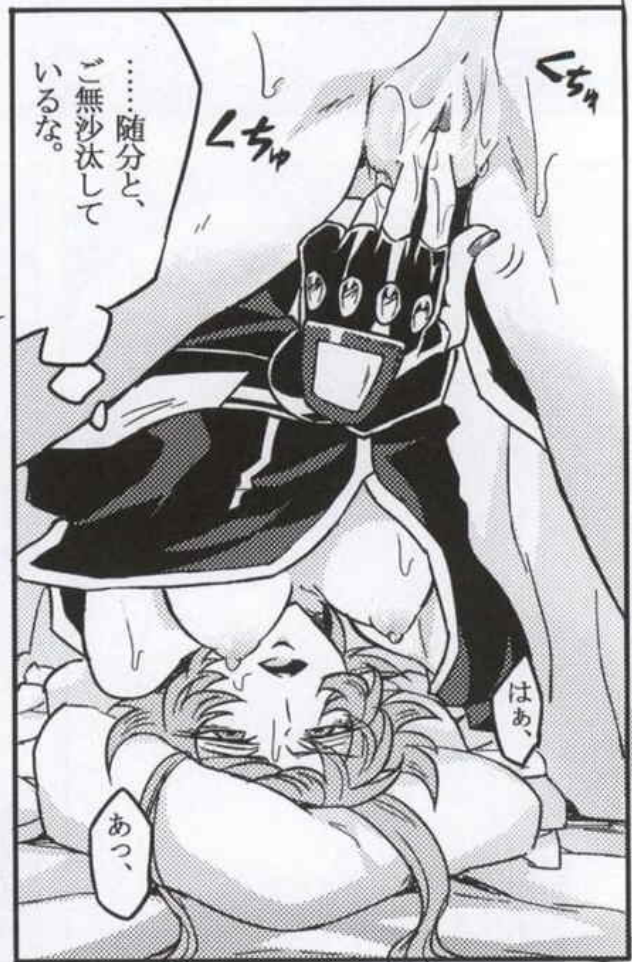
ふん。しかし、人間共の下らぬおもちゃも、

悪くは無いな。



ちゅん……ん……

そうだ。



……随分とご無沙汰しているな。

はあ、

あつ、



この状況を理解できぬほど、
世間知らずなわけでも
なからう。

なあタイタン。



ガリア、

貴様、
何を、

さす
さす



それとも、
私が何を求め、
何を望み、
何をなさうとしているか、

理解できぬほど、
無知で無垢な
お子様なのかな？



これ
なあーんだ♪



血迷ったか貴様、

いいから
任務に戻—、



な、な、
な、な、

貴様それをどうで—!

ふふ、
やはりタイタン
貴様だったか。

いけないなあ、
書庫にしまうならもっと
上手に隠さないと。

私のような悪意ある者に
目敏く見つけられて、
椰掄の恰好の餌食にされるぞ？



ところで、
貴様はこれをどうして
いたのかなあ。

お子様なタイタンくんが
趣味で集めてたのかなあ？
それとも、
タイタンくんの愛しの女神
パラス様に読み聞かせて
寝かしつけていたのかなあ？

四天王の他の二人や
貴様の配下共が知れば
どんな顔をするの
かなあ？

くっ
……



キラ



いい体を
している。



？



ガッパ



利口で
宜しい。

……



どうなって
いるのかな。

さて、
タイタンくんの
ここは、

これは
返してやろう。



あの馬鹿な小娘に
心酔している貴様の事だ。

私のような
大人の女では勃たぬ
少女愛者かと思っていたぞ。



ほう、

少しばかり
心許ないが、
一応勃つんだな。



口を慎め
ガリア!

パラス様は
……



そうであろう
……?



余計な情を抱くなど
下らぬ事よ、

タイタン。



我らはあの女を
利用しているに
過ぎぬ。

すべては偽りの
忠義である事を
忘れるな。



ふん、
貴様のような腑抜けは、
そうやって無意味な苦悩を
繰り返していればよい。

大事な大事な
パラス様の顔でも
思い浮かべていろ。



あッ!





はあっ、

くっ……。



貴様の不穏な動きは
秘密にしておいて
やろうか？

アッお……

なかなか
よいものだったぞ、
タイタン。



さて、

次はハイペリオンの
ところにも出向いてやるかな。
あいつからも何か面白い話が
聞けるかも知れん。

ま、
待てガリア！



貴様もかわいい
ところが
あるのだな。

な……

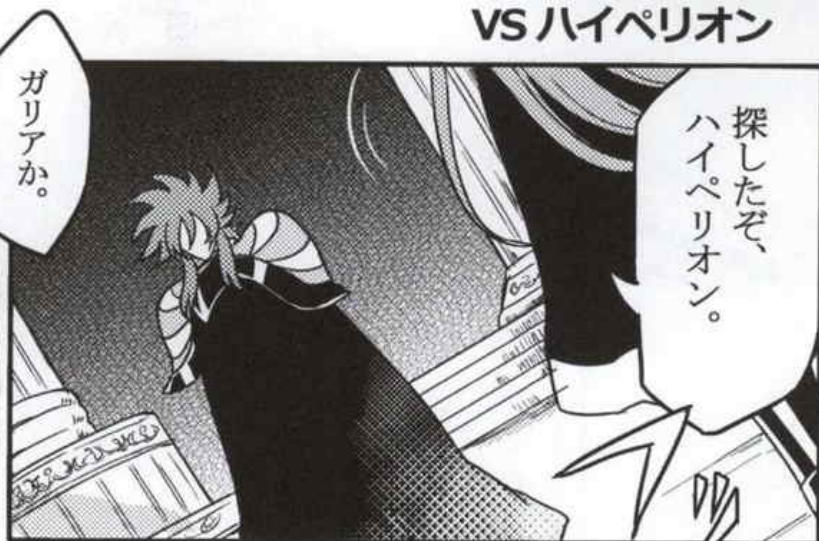


ふっ、

わかりやすいなあ。
私が今あの男と会っては
まずい事でもあるのか？

これはまた、
いい餌があったものだ。

ガリア——ッ！





なあに、
10分と要らぬ。

準備なら
出来ている。

今すぐにでも
入れてくれて
構わんのだぞ？

ぬちやあ..



余計な
お世話だ。

だが貴様の
そういうところは、
嫌いじゃないぞ。
ハイペリオン。



男を誘うのなら、
もつと上手に
やるべきだな。



...はあ。

それが
物を頼む態度か。



溜まって
いるのだな。

はあ、

十分濡れていたが、
少しやっただけで
これだ。





ああ、

その通りだ。



焦らさないでくれ、ハイペリオン。

私は貴様が欲しくて堪らんのだ。



……



俺が、か？



男なら誰でもいいのだろう。



私がそんな軽率な女に見えるか？

前から貴様の事は想っていた。



ふん。それよりこんなに濡らして、

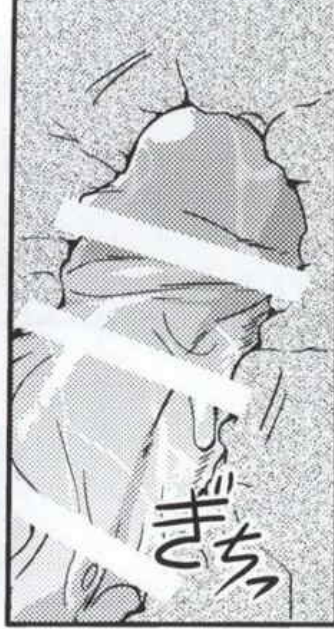
俺のもとに来る前に何をしてきた。



気遣ってくれるのか？



ああ、
はあ、



ぎゃっ



大きくて、
遅しくて……

は、
あつ！

ッ……、
カリが張って、
中が削られて
いるようだ。

いいものを
持っているな、
ハイペリオン。

それにしても、
はあッ、



これだけの大きさの
男を受け入れるのは、
久々であった
だけの事だ。

軽く、
イッてしまった。

ぎゃっ



なんだ貴様、
私を淫売だとも
思っているのか？

このような公の場で
いきなり股を開く女は
普通ではない。



欲しかった。

よく
見えるだろう。

ああ、
はあッ、



こんなことをしている
女のものとは
思えないくらいにな。

お前こそ強く締め付けて
きているのではないか、
ガリア。



ふ、ふふ。そうか。
手段を選んでいる余裕など
なかったものでな。

今はどうしても貴様に
買かれたかったのだ、
ハイペリオン。

次はベッドの上でも
誘ってやれば、

もっと素直に
私を求めてくれるのかな？



だが、

私の想いにも
嘘はないぞ。



はっ♡

ほう？

撫でられた

やはり貴様には
お見通しと言う
わけか。



さあな。
お前の真意が
汲めぬ内は。

今も何かを
企んでいる
のだろうか？



そんなものまで
求めるか？

お前は。



イイコトを
教えてやる。



口を貸せ、

ハイペリオン。





んっ
……♡
少し、大きくなったぞ。
やはり貴様ら
何かあるな？

だが貴様は今私の中だ。
私も奴も咎める事は
出来ぬぞ？



しかし奴はそう易々と
言う事をきく
男ではあるまい。

……
言われる
までもない。
そのような
つもりもない。

あの娘
パラドクスにしたように、
手荒な真似をして
及んだのではなからうな。



仮にも女だぞ
私は？

安心しろ、
貴様のタイタンには
傷ひとつつけてはいない。



……で、
奴とはどういう関係
なのだ……ふふ。

この
ホモ野郎が。

……女で遊んでいる
お前に言われるのは、
心外だな。



イイザマだなあ
ハイペリオン。



イキそうか？



はあっ、

ああっ、

いっつー！

あっ、

あ、



構わぬ、
中に出せ。

成す術もなく
果てるがよい。

まゆ



あああああッ……♡

はあッ

きゃん

ぎん

……

ふーッ
ふーッ

ふふ
それは褒め言葉か？

私のような好き者に
魅入られぬように
するんだな。

く……

この悪趣味
め……。

ハイペリオンので
いっぱいだ。

ふふふふふ。

はーッ
はあ……
ふふ。

……
貴様も、

る
お……

この私に
弄ばれたのだ。



アイガイオン。

貴様の事を
すっかり忘れていたぞ。



そう言わずに
私に付き合え。



……。
何の事だ、
ガリア。

それに、
机は座るもの
じゃあない。



人間に感け、

神より賜りし聖剣に
いち早く傷を
つけおつて。



なあアイガイオン？



貴様のような小物を
四天王最後に
とつておいたのは、

やはり
間違いだったな。













やわらかいな。
使い込んで
いるのか？

何を、



そろそろ
頃合だろう。

ひ……。

まっ！



全然小物などでは
ないではないか！

待て待て待て待て待て
ちよつとタンマ
き、聞いてないぞ！



そんなもの
入るわけ、

あつ、
ああつ、



だがよい
締めりだ

おッ、

おっ

絡み付いて
離さん。



ぎっ

やはり根元までは
入りきらんか。

いぎッ、

ぎっ

おおあッ、



随分な
乱れっぷりだなあ
ガリア。

はっ、

ほ、

おおっ、

おおほおッ

そんなにいいか？

あぐッ、



犯される貴様も
美しいぞ、ガリア。



おおっ、
あッ、

ぎい、

貴様ア、
よくも……！

き

ホロ
ホロ



弄ぶのは好きでも、

弄ばれるのは
気に食わんか？

ガッ



そろ、
出すぞ。

あああああ!!



ふう、
うむ。

良い使い心地
だったぞ。

ガリア。



はあ、

あああああッ……!



次が
あるなら、
そうだな。

貴様の好きなように
させてやろう。



まんざらでも
なかったような顔だが?

ふざけるな貴様!
よくもこの私に、



く……!



所構わず致すような
真似を繰り返して
いると、

貴様のその悪癖が
あのお方に知られて
しまうかも知れないぞ。

ガリア。



だがこれに
懲りたら、

あまり
遊びすぎない
ことだ。



ああ、
そうだ。

次からはもう少し
隠れるようにするんだな。



おっ

おぼえていろーっ!



???



……面白い女だ。





……
まあでも、

ズッ
サッ

あいつらも悪くは
なかったかな。



……



んっ……

クッッ



あのお方が
お戻りに
なられたそうぞ。

きゃッ



ヒューン

ドッ



ぶっ

なんでも、
「直接話したい兵がいた」
……とか何とか。



あのお方……
何故サターン様が
……？



こ、ここは我々雑兵の使用している個室ですよ!?

ガリア様なんとというお姿で!?

うっ、うわわっ!?

貴様ら、それは本当か。

ザッ



は、我々も噂話でしか...

我が神がお戻りになられたというの事実なのだろうな。

ところで、



急ぎの用があったのでな。

近場のここを借りたまでの話だ。



そうか。



私自身消耗していて気付かなかったが、神の小宇宙を微弱ながら感じる。

どうやら、単なる噂というわけでもなさそうだぞ。



ガリア様、どちらへ?

おっ!?

私はサターン様より
直々に光臨刻衣と聖剣を
賜りし誇り高き戦士、

刻闘士四天王一角、
「武神光臨剣のガリア」
なのだからな。

お会いしに行く
ほかなからう。

ガリアン...

「猛攻刻闘士ガリアちゃん」

- END -



サターニ様よ

このあと
滅茶苦茶
セックスした。

